

令和5年1月20日

第1回遠野市総合教育会議 会議録

遠 野 市

令和4年度第1回遠野市総合教育会議 会議録

- 1 開催場所 遠野市役所本庁舎 3階大会議室
- 2 開催日時 令和5年1月20日（金） 午後3時から午後4時23分まで
- 3 出席状況

○ 出席者

市長 多田 一彦
教育長 佐々木 一人
委員 菊池 崇
委員 菊池 和子
委員 藤山 重理子
委員 小玉 淳浩

○ 職員

教育部長 伊藤 貴行
総務企画部長 鈴木 英呂
経営管理担当部長 佐々木 啓
健康福祉部長 菊池 寿
市民センター所長 海老 寿子
総務企画部経営企画課長 新田 正宏
総務企画部財政課長 白岩 克己
総務企画部管財課長 松田 穰司
健康福祉部子育て支援課長 菅原 康
健康福祉部保健医療課長 佐々木 真奈美
市民センター生涯学習スポーツ課長 菊池 里佳
市民センター文化課長 朝倉 優香
教育委員会事務局学校教育課長 佐々木 淳一
教育委員会事務局学校総務課長 多田 清子
学校給食センター所長 菊池 今英

開会・開議 午後3時

1 開会

○教育部長

ただ今から令和4年度第1回遠野市総合教育会議を開会いたします。

私は、教育部長の伊藤でございます。本日の会議の進行を務めさせていただきます。よろしく願いいたします。

本日は、市長、教育長、教育委員全員に出席していただいております。

それでは、はじめに市長からご挨拶をいただきます。

2 市長挨拶

○市長

令和4年度第1回遠野市総合教育会議の開催にあたりまして、御礼を申し上げます。教育委員の皆様には、日ごろから遠野市の教育、子どもたちのためにご尽力を賜っていることに心から感謝申し上げます。

総合教育会議は、教育委員会の皆様と市長部局が力を合わせて、課題を共有して、子どもの教育にとって何が必要なのかということ話し合う大事な場所です。同じテーブルで議論する場ができたということは、大変意義深いことだと思っております。部長、課長等出席しておりますので、ざっくばらんにいろいろと意見交換ができた方がいいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

本日の報告事項は、教育委員会学校教育課から2件ございます。今年の4月に実施しました学力と学習状況の調査の結果をまとめた「遠野市小中学生の学力及び学習の状況について」と、協議が進められております「部活動地域移行の検討状況について」ご報告申し上げます。

協議事項については、子どもたちの学びの場、環境づくりを進めなければなりませんので、令和5年度に教育改革の一環として実施します「未来づくりサポート大作戦について」を議題とさせていただきます。

皆様、ご多忙の中、出席していただいております。ありがとうございます。有意義に時間を使わせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○教育部長

ありがとうございました。

ここからは遠野市総合教育会議設置要綱の第4条第1項の規定により、市長が議長となりますので会議の進行をよろしく願いいたします。それでは、市長お願いします。

3 報告事項

(1) 小中学生の学力及び学習の状況について

○市長

次第に従い3の報告事項から進めてまいります。「小中学生の学力及び学習の状況について」を担当から説明をお願いします。

○学校教育課長

学校教育課長の佐々木淳一です。よろしくお願いいたします。

私からは、遠野市小中学生の学力及び学習の状況について、報告いたします。例年4月に行っております全国標準学力検査、これは小学校2年生から中学校2年生までを対象として行っているもので、NRT検査と呼ばれているものになります。本市においては、こちらの調査結果、偏差値をご覧のとおりまちづくり指標に定めまして、取り組みを進めてきています。上の段が小学校の目標偏差値、中段が中学校の目標偏差値とそれぞれその下に実数値がございます。令和4年度については一番右端になりますが、小学校は50を超えることを目指しているのですが、小学校は49.5という数値になりました。小学校は少し右肩下がりになっていっているところもあり、若干コロナの影響が見えるかなというところもありますが、今、各教科がどうなっているか分析を進めているところです。中学校は未だ目標には届いておりませんが、健闘していて48.1というところで推移しています。

次のスライドに移ります。各教科の状況を見ますと、小学校の各教科では、国語、算数など各学校で研究を進めている教科は好ましい傾向にあると思われれます。これに反して、社会、理科というところはもう少し頑張っていきたい課題です。

中学校です。5教科ありますが、国語、算数、理科などは健闘しているところです。状況は毎年多少変わってくるところでありますが、令和4年度は英語が課題になっているところです。令和に入ってからしばらくみている中では、理科に多少課題があるということでしたが、令和4年度におきまして、ここは改善傾向が見られます。このスコアだけではなくて、このNRT検査は知能検査とバッテリーということで、相関関係を見ることができる調査になっています。これを合わせて行くと、知能検査の結果から期待される学力がはじき出されます。これをどれくらい子どもたちが達成しているかという表になります。令和4年度の小学校85%、中学校84%ということで、8割を超える子どもたちがこの知能から期待される学力を有しているということになります。ただ、発揮できていない子どもたちも10%強ありますので、ここをゼロにしていくことを目指していきたいと考えています。

これらのテストに合わせて、県学調、全国学調も年間を通じて、定期的に行われています。この調査の際には、児童生徒や学校の教委職員に対してアンケートが行われています。その結果と関連したような学習状況を分析してみました。今、ご覧のスライドは県学調の児童生徒質問紙からですが、「学校の授業の内容はよく分かりますか。」という子どもたちへの質問ですが、こちらについてはご覧のとおり、小学校では9割の児童、中学校では約8割の生徒が授業の内容がよく分かるという回答をしています。これらは経年で見ていてもそれなりに好ましい結果となっています。

次のスライドです。学校質問紙で先生方への質問です。「児童生徒の間違いを認める雰囲気をつくり、その中で授業を進めていますか。」という質問です。こちらについては、小中学校とも14校中13校が肯定的な回答をしていますので、どの学校の先生方も授業改善が進んで、学びやすい雰囲気の中で授業を進めていると思います。また、学校訪問した

際にも教育委員さんの皆様方にも見ていただいておりますが、子どもたちも先生方も熱心に取り組んでいる姿が見られて、学習意欲が高まっているということが分かります。

次のスライドに移ります。「学校の宿題に加え、補充のための学習や発展的な問題に児童生徒が自ら取り組める工夫をしていますか。」という令和3年度からの質問項目ですが、こちらは4件法で積極肯定だけを取ったものになります。小学校11校中5校が肯定的回答、中学校3校中1校ということになります。学校からの家庭学習のアプローチが不足しているということが挙げられます。子どもたちも同様の内容のアンケートが行われていますが、こちらでも同じような結果となっています。このことから、やはり家庭学習と授業とをつなげたような家庭学習の取り組み方、家での学習の質的改善が求められるということになりますし、授業で分かった内容をもっと知りたいに変えていくような、さらに深めていくような子どもの学び方をきちんとリードしていかなければならないと感じております。

次のグラフになります。これは家庭での過ごし方を表しているものになります。「学校の授業時間以外に、普段、これは平日になりますが、1日どれくらいの時間、勉強をしますか。」という問いでは、小学校2時間以上の家庭学習が全国比でマイナス5.6ポイント、中学校は同じ内容の質問になりますが、マイナス14.5ポイントということで、家庭学習を進めている子どもたちの数は少なくはないですが、時間にすると2時間以上という子どもが全国比より少なく、特に中学校は少ないということが明らかになりました。

次のスライドになります。では、どのように過ごしているのかというと、「普段、これは平日になりますが、1日どれくらいの時間、テレビゲームをしますか。」ということですが、中学校データですが、2時間以上ゲームをしていますというのは、ゲームに限ったところですが、全国比と比べてプラス5.9となっています。時間もご覧のとおりですが、かなりの時間、ゲームに没頭している子どもたちが増えてきていることが分かります。経年で見ても、どんどん時間が増えてきています。家庭での時間の使い方の見直しや先ほどの家庭学習のあり方ということを含めて、今後の指導に活かさなければならないという段階だと思っています。

今後の方向性です。3点ありますが、授業改善は好ましい方向で進んできていますので、これからもこの方向で研究を進めていきたいと思っております。2つ目が今後の取り組みになります。家庭学習の質や量の充実ということで、授業と連動させた家庭学習や放課後学習の充実を図る。特に小学生の放課後学習の充実を図って、1人で学んでいけるような子どもたちにしていかなければならないと感じております。3つ目がGIGAスクールで導入した端末をさらに活用しながら、ちょっと苦手なところは戻って学習するとか、よく勉強ができて子どもたちはさらに発展的な問題に取り組んでいく。このようなことを個別最適に応じてもっと取り組んで行きたいと感じています。

以上、学習状況と学力についての報告といたします。

○市長

担当者から説明がございましたが、委員の皆さまからご質問とか意見がございましたら、お願いします。

はい、藤山委員お願いします

○藤山重理子委員

今、説明があったように、市内でも平日にもかかわらず、SNSやゲームなど2時間以上視聴している傾向が強くなっているので、いかに保護者の家庭での教育が大切だということを強く思いました。市の取り組みは年々工夫がされている中で、家庭の中で子どもを見守る親の姿勢、意識が低下している部分もあり、どうしても子どもが一人で家にいる時間が長いと親が管理しきれていない部分があります。学力向上では、学習の量や質が求められているのは分かりますが、親のそこまでの意識改革がちょっと伝わってこない。こういったグラフ化したときに低下している傾向が見えるので、親にも家庭学習の大切さを伝えるとか、学校での様子を家庭の中でこういう授業があったとか会話する時間、コミュニケーションする時間の見直しをしていかなければいけないと思っています。市ではICTを活用したタブレットを導入されましたが、タブレットを使っての家庭学習の取り組み方が分からない親御さんや、タブレット操作に不慣れな親御さんもいらっしゃるかもしれないので、子どもと一緒にタブレット端末の操作や親子で取り組める課題など展開していったらいいなと思います。

○市長

ありがとうございます。

小玉委員、委員になっていただいて最初の総合教育会議です。いかがですか。

○小玉淳浩委員

親が共働きだと子どもたちだけの時間がどうしても増えてしまいますので、その時間、勉強すればいいのですが、ゲームであったり、中学生高校生になると携帯電話を操作したり、そういう時間がどうしても増えてしまうのはしょうがないと思います。やっぱり、子どもたちだけでなく、親の意識というものも同時に考えていかなければならないと感じております。

○市長

家庭の中でも子どもさんだけでなく、親も携帯電話ばかりいじっているとそういう環境になりますよね。

○菊池崇委員

今、タブレットやスマホというのは生活になくってはならないものになっております。市長がおっしゃるとおり、お前だけ使うなと子どもに言っても親が同じくらい使っていて、それは土台無理な話なので、使ってもいいですけどルール作りですね。タブレットやスマホを与える前に、ある程度ルール化していかないと、どうしても時間はどんどん長くなってしまいますし、与えてしまえばもう言うことを聞かなくなってしまいます。そこは学校や家、地域もそうですけれども、ルールを決めていった方が良いのかなと思います。

勉強に関しては、学校の授業を見て、ここ数年、どんどん子どもたちの集中力が上がってきているのを感じておりますので、もったいないです。何で伸びてこない、繋がってこないというのは、やはりこのデータに現れているところがあると思います。

○市長

和子委員、いかがですか。

○菊池和子委員

先ほどの藤山委員のお話しの中での「コミュニケーション」という言葉がすごいキーワードとなっている中で、親子のコミュニケーションが大事だと思います。ゲームやスマホより面白いものを親も一緒にやるとか、地域でもいろんな面白いことがいっぱいあるので、子どもが興味を持ったり、関心を持ったりする。そういうことをたくさん増やしていくことが必要だと思います。スマホやテレビに負けない地域の力を作っていければいいと思いますし、子どもと先生の関係もそうですけれども、親と先生のコミュニケーション、そういうところも段々薄くなっているような気がしますので、先生がここを頑張ればもっと伸びますよという話を親御さんと気楽に話しできるような、そういう時間を確保してあげればいいと思います。

○市長

ありがとうございます。

面白くするというは大事ですね。

また後でいろんなご意見を伺いますので、進めさせていただきます。

(2) 部活動地域移行の検討状況について

○市長

次に報告事項の2、「部活動地域移行の検討状況について」を担当から説明をお願いします。

○学校教育課課長補佐

遠野市学校教育課の本宿です。

私からは、休日の部活動の地域移行に向けた取り組みについて、説明をさせていただきます。

説明内容につきましては、部活動の地域移行の内容と背景、2点目としましては遠野市における検討委員会設置に係る説明、3点目としまして、遠野市立各中学校における部活動の現状、検討委員会での取り組み内容の確認についてということで、大まかに分けて4点説明させていただきます。

1 ページをご覧くださいと思います。公立中学校の部活動の改革を検討するスポーツ庁及び文化庁の有識者よる会議が設置されております。その中では、地域における子どもたちのスポーツ及び文化芸術の環境整備方針、活動の具体的な議論がされてきておりま

す。議論が進みまして、スポーツ庁では令和4年6月に、文化庁では8月に、令和7年度を目標に休日の運動部及び文化部の活動を地域のスポーツクラブ等に委ねる地域移行を実現すべきだとの提言をまとめ、公表しております。少子化や教員の業務負担等を背景に、学校の部活動では支えきれなくなっている中学校の部活動の環境について、学校単位から地域単位の活動に変えていくことで、少子化の中でも子どもたちがスポーツ及び文化芸術に親しむことができる機会を維持することを目指すこととしております。具体的には、指導者や練習場所が確保しやすい休日の部活動から、段階的に地域移行をしていくこと基本としまして、問題点を検証し、平日での実現につなげることとしております。期間につきましては、令和5年度から令和7年度までを改革集中期間に位置付けまして、実現への工程をまとめた推進計画の策定を求めているところでございます。

続きまして2ページをご覧くださいと思います。部活動の意義と課題ということで、その取り組みに至った経緯を掲載しております。部活動につきましては教科学習とは異なる集団での活動を通じた人間形成の機会とか、多様な生徒が活躍できる場ということもありまして、生徒の自主的自発的な参加による活動を通じて、学習意欲の向上や責任感、達成感の獲得、連帯感の涵養等に資するとともに、自主性の育成にも寄与するものとして大きな役割を担ってきております。

また、学校教育の一環としまして、人間関係の構築、自己肯定感の向上など教育的だけではなくて問題行動の発生抑制、学校への信頼感や一体感の構成等によって大きく貢献してきておりまして、学習指導要領に位置付けられた大変意義深い活動であることが認識されているところでございます。一方、これまで部活動には教師による献身的な業務の下で成り立ったというところがあります。休日を含めまして長時間労働の原因であることや、指導経験のない教師にとっては多大な負担であるということ、生徒にとっては望ましい指導を受けられない場合がある等の課題があるとしております。このような状況を踏まえまして、改革の方向性では休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築する一方で、部活動の指導を希望する教師は引き続き休日に指導を行うことができる仕組みを構築することで、生徒活動時間を確保するために休日における地域のスポーツを実施できる環境を整備することとしております。

3ページ目が文化庁及びスポーツ庁から示された資料の内容でございます。令和5年度から3年後の令和7年度を目途に休日の部活動から地域移行にあたりまして、地域におけるスポーツ文化芸術に親しむ機会の確保に取り組むという提言内容となっております。

続きまして、資料4ページが休日の地域移行のイメージ図となります。現在、学校主体で実施している平日及び休日の学校部活動を指導者や場所が確保しやすい平日の部活動から、段階的に地域移行していくことを基本としております。これがイメージ図となっております。

当市における検討状況でございます。当市においても、この提言を踏まえまして学校部活動の在り方や地域移行などを検討していくにあたりまして、部活動検討委員会というものを設置しております。構成団体は、PTAの連合会代表者をはじめ中体連中文連等の代表者で構成しているものでございます。

続きまして、遠野市における部活動の状況でございます。遠野市教育委員会では、平成30年に部活動の在り方に関する方針を策定しておりまして、その内容に沿って活動してお

ります。主な内容につきましては、学校の教育目標、経営方針に基づき学校教育の一環として行われる生徒の自主的自発的な参加により行われる活動であります。部活動時間は、現在、部活動の休養日及び活動時間の基準に則りまして、週当たり2日以上の日休みの設置及び1日の活動時間につきましては、平日で2時間程度、学校の休業日には3時間程度ということで週1時間が週11時間の活動ということでそのような内容を盛り込んだものとなっております。ちなみに、この方針に基づきまして各中学校では任意加入で部活動がされておまして、大抵の生徒は何かしらの部活動に加入するような内容となっております。

11月に検討委員会を開催し、いろいろ議論をいたしました。その中では、この一連の部活動改革ということで、部活動改革の第一歩として、生徒の日休みの部活動の機会を確保するため、休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備することを目指すとともに、休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築することとしております。そして、この結果が教員の働き方改革にも進んでいくこととなります。学校での部活動は、学習指導要領で学校の教育活動の一環と示された活動でございます。地域部活動は学校管理下外の地域の活動になることから、部活動を地域に移行される際の方針を生徒のニーズに応じた休日部活動機会の確保ということと、教員の働き方改革の推進の2点の要旨ということで取り組んで参りたいということで第1回目の検討委員会で確認しているところでございます。

続いて実施スケジュールでございます。国で示された実施スケジュールは、令和5年度から令和7年度までを改革集中期間と位置付けまして設置をされております。遠野市におきましても、今年度から部活動の検討委員会を設置して、令和7年度を目標に実施を進める計画で進めております。

10ページには、先日行いました検討委員会における主な意見を掲載しております。各委員から50近い意見を出していただき、その内容を課題別にまとめた意見の一部を抜粋した資料を掲載しておりますので、後でご覧いただきたいと思っております。

最後のページでは、今後の取り組みについての資料を掲載しております。2月に第2回目の検討委員会の開催を予定しており、第1回目に出された意見の共有と、先日、国から示されたガイドラインについての共有、その他、現在行っております児童生徒、保護者対象としたアンケート、スポーツ団体への受け皿に関するアンケート結果について協議をしたいと考えております。また、部活動の地域移行に係るモデル事業の実施についても、協議をしていきたいところでございます。

最後になりますけれども、スポーツ庁と文化庁が、12月27日に部活動の総合的なガイドラインを公表しております。2023年度から3年間としていた地域移行の達成時期が見直しされまして、可能な限り早期の実現を目指すということに改められました。これにつきましては、ガイドラインについて意見募集した結果、3年間での移行達成は現実的に難しいという意見が多く出されまして、可能な限り地域の実情に応じて早期の実現を目指すということで見直されております。

段階的な地域移行につきましては、準備ができたところから順次ということですので、決して一斉に地域移行をしなければならないということではありませんので、地域の実情に応じて多くの課題がありまして、それを解決していく必要がありますので、これ

らの課題と向き合いながら検討委員会の意見を踏まえまして、準備を進めていきたいと思
います。

簡単ではありますが、説明を終わらせていただきます。

○市長

担当者からの説明がありました。皆様からご意見をいただきます。

○小玉淳浩委員

この話題は、今、中学校小学校の保護者の間で非常に話題になっている取り組みです。数
点質問させていただきたいのですが、教員以外の土日の指導者というのはどなたがどういっ
た形で選定するのか。選ばれた方には報酬が発生するのでしょうか。

○学校教育課長補佐

地域移行の際の受皿については、今後の検討事項となっております。今ちょうど、市内
の各スポーツ団体等へ受皿が可能かどうかというアンケートを取ろうとしているところでご
ざいます。受皿の団体としましては地域のスポーツクラブ、保護者会等の団体が考えられま
す。休日に指導を希望する教員についても考えられると思いますので、その3点について今
後、検討していきたいと考えています。報酬等についても、まだ具体的な議論にはなってお
りませんので、これからということになっております。

○市長

ありがとうございます。

他にございませんか。

○菊池崇委員

これに関してはまだ手探りの状況ということで、それに対する意見というのは難しいもの
がありますが、現段階でのあくまでも私の私見ということでお話しさせていただきたいと思
います。

部活動に関して、教育の一環としてずっと活動してきて、ある程度日本では結果を残して
いるものだと思っております。それは、例えばサッカー、国立競技場の決勝、あそこで5万
人以上の観客を集めるということで、他の国のスポーツ選手にとってはこの国はすばらしい
と言われているところがございます。部活動は、中学校そして高校と続きますけれども、こ
れが今まできちんとできたのは教師のいってみれば凄惨な犠牲のもとに成り立っていたものな
ので、これを地域移行にするということはそれも地域に託すということになります。小玉委
員が言ったように、それなりの報酬というのは最低限、必要であろうと思います。部活動に
携わってみていると、平日に練習して、土日には練習試合という流れになります。練習し大
会で発揮する、それが必要になってきます。なので、練習試合を土日で繰り返して大会に臨
むという、そういうシステムにもなってきて、その土日の練習試合には保護者の送り迎え、
こういう協力なしには成り立っていないところがございます。それぞれみんな大変なところ
で一生懸命子どものためにやっております。そういうところに関しても、ちょっと目を向け

て、この時だけ我慢すればいいという保護者が今まではいた訳ですが、そのシステム的には凄いいいことでしたので、教師、保護者の方のかなりの負担を地域にも下すものなので、やっぱり国であったり市が負担しなくてはいけない部分なのかなと思います。

あとはもう一つ、今の議論は土日の部活動指導者ということで、平日は顧問として学校の先生が、土日はその地域の人や指導者が指導するという形になる。そうした場合、部活動としてやるのか、あるいはクラブチームとしてやっていくのか、そういうことが出てくると思います。大会に関しても、クラブチームが参加できるかどうか分からない部分で、そういうところも含めてまだいろいろ議論できない部分もあります。

先ほど言われたように、3年じゃなくてそれ以上に伸びたと言っていますけども、当たり前です。そういうところが決まっていない、協議ができないところだと思います。ただ、子どもたちは毎日毎日勝負をかけている訳です。なので、そこはベストじゃなくてもベターな一番良いところ探ってあげるべきです。

もう1点だけ。部活動の良いところは、上手な子とそうでない子と1つのチームになって、そこで同じ指導を受けられるというメリットがあります。クラブチームになりますと、本当に上手い子だけがそこに行ってより高め合う環境になります。部活動は、例えば野球で言いますと、キャッチボールができない子が入っても、キャッチボールができるようになる、そういうメリットあります。学校教育の一環としてやってきた良い部分、それは残していかなければならないですし、上手い子どもたちもフォローアップしてより良いところに出してあげるような方針を探って出していくべきだと思います。

○市長

他にございませんか。

なければ進んで、次にまた議論したいと思います。

4 協議事項

(1) 未来づくりサポート大作戦について

○市長

それではですね、協議事項に移らせていただきます。

次第の4でございます。未来づくりサポート大作戦について担当者の方から説明してください。

○教育部長

教育部長の伊藤でございます。

私から、未来づくりサポート大作戦検討案を説明させていただきます。資料はA3縦長のものです。画面は1ページ目を映しております。この資料は、教育長が目指している学力向上とグローバル社会で活躍する人材の育成の実現に向けまして、視点・課題と位置付けました4つ項目、学力向上、不登校の対策、高校魅力化サポート、グローバル人材育成。これらを、令和5年度の計画あるいは予算に向けて、教育委員会事務局と市民センターとで連携して検討している内容でございます。

私から全体の概要を説明させていただきまして、その後、詳細を学校教育課長と生涯学習スポーツ課長から補足していただく形といたします。

はじめに、この名称、「未来づくりサポート大作戦」でございます。皆さんに会議の案内を差し上げた時点では、仮称として「地域教育サポート」という名称でご案内してございます。これは学校での授業・学習に加えまして、新たな学びの場を作り、地域の協力を得て、授業のサポートを行うという事業を検討してまいりました。先ほどの4つの視点・課題に対応していくために、既存事業の拡充や見直し等、事業全体をプラン18項目に整理しまして、3カ年、Hop、Step、Jumpという形で段階的に進めいくもので、トータルで「未来づくりサポート大作戦」と名付けたものでございます。

プランの主な項目でございますが、重複するものもありますが、学力向上では小中学生に向けた放課後・長期休業等への学習支援、高校生に向けては学習支援センター、これは公営塾のイメージです。これらの開設に向けて取り組みます。更には読解力向上、教員の負担軽減に取り組みます。不登校対策では子どもたちと学校とをつなぐジョイントスクールの設置、高校魅力化サポートでは公営塾や、高校生の海外インターンシップなどに取り組みます。グローバル人材育成では、地域人材の協力を得たイベントの開催など、これらの進め方や人材確保におきましては、場所とか施設、財源、更に庁内はもとより学校や地域との連携が必要になります。そういったことから3カ年で段階に取り組んでいく必要があると考えてございます。

この後、詳細をそれぞれの課長から説明をいたします。委員の皆さんには様々な視点からご協議いただきまして、この大作戦への意見をいただきたいと思いますと思っております。

○学校教育課長

それでは2ページ、下段の未来づくりサポート大作戦新規事業というところの表を基にお話しさせていただきます。横軸は、令和5年度、令和6年度、令和7年度の3か年をイメージしておりますが、令和5年度を中心にお話しいたします。

上のオレンジの帯です。まずは学力向上に関する取り組みで小学校の放課後等学習支援を考えておりまして、地域の学習ボランティアの方、地教協の方々も含めてですが、放課後または長期休業期間に子どもたちの個別学習支援を行う、これは直接的に指導しないまでも見守りだとかをしていただくということも含めています。対象は各小学校の児童、回数は厳密でいうと週2回程度と考えています。場所は各小学校の会場を使ってと考えております。これらの人材は、地域の方々、あるいはPTAの方々にボランティアとして入っていただくということになります。

モデルとしては、今、市内で2つの小学校での取り組みが行われております。1つが土淵小学校です。地協教の方々に入ってもらっていますが、各学年の子どもたちが授業終了後、学習室の方に向かい、そこで30分程度、学習して帰っていくということになります。ここでは、分からなければ勉強を教えてくれる方も入っていて、自分でできる子の分についてどんどん励ましの声をかけていただいているということで、取り組んでいるところです。

もう一つは遠野小学校です。遠野小学校は比較的児童数も多いので、個別の指導が難しいことから、丸付けボランティアの方々をお願いして、学校の先生方が出した課題を皆で共通で取り組んで、ボランティアの方々がどんどん丸付けして、そしてよくできたねとか褒めて

いく、声をかけていただく、こういう取り組みを進めています。このように学校規模だとか、実際の状況に応じて、一律に同じことをやりましょうというようにはならないと思いますので、各学校でどんな取り組みにしていくかということを検討していただきながら、準備ができたところから、令和5年度はスタートしていただきたいと思っています。ここの中には、GIGAスクール端末で準備をしたドリルソフトなどの活用も個別な学習として考えられますので、学校にはあまり負担をかけずに地域の方々にお力添えをいただきながら、子どもたちを育む体制を作りたいと思います。

次は青の帯です。不登校対策に係るジョイントスクールについてです。現在、東館庁舎に学校復帰のための教育相談員が支援を行う適応指導教室かりん教室が設置されております。ここには毎年15人前後の子どもたちが通級しまして、学校復帰したり卒業していくということになっていますが、やはり遠野は広域ですので、ここになかなか保護者の送迎がなければ来られない子どもたちがいることも分かっています。そこで、東中学校区、西中学校区にも家庭と学校をつなぐようなジョイントスクール、同じような子どもたちの居場所を作れないかというところでこの取り組みが企画されております。不登校の子どもたちが、令和3年度までのところでは、毎年30名くらいの子どもたちがおります。小学校1桁中学校2桁ということになりますが、この子どもたちにも学びの機会を与え、学ぶ楽しさを感じてもらいたいところもございますので、この取り組みをスタートしたいと考えております。

その下ですが、学習支援センターは令和5年度は準備になりますが、中学校高校で放課後の学習を進めようとする、地域のボランティアの方々にも中学生高校生に勉強を教えてくださいというのでは中々ハードルが高いところではありますので、ここは専門的な人材を入れてやっていく、いわゆる公営塾、寺子屋ということになりますが、どこか会場を確保した上で専門的な人材に子どもたちの学習支援指導を行っていただきたいという考えです。

読解力向上プロジェクトは今年からお試しで行っているのですが、新聞記事を活用した15分ぐらいで取り組める教材を使って朝学習を行うということです。その次の学習支援員のところはスクールサポートスタッフを表しております。

学校関係は以上になります。

○生涯学習スポーツ課長

生涯学習スポーツ課長の菊池里佳と申します。

私からは、グローバル人材育成事業について、ご説明いたします。

資料は下からで4行目の黄色の帯のところです。(仮称)キッズワールドクラブ・ジュニアワールドクラブと記載している文面でございます。この事業の目的は、遠野の子どもたちが将来に向けてより羽ばたく力を養える、現在の変化に対応できる人材を育成するため語学力やコミュニケーション能力、異文化体験を見つけ国際的に活躍できるグローバル人材を継続的に育てていくための人材育成プログラムが必要だと考えおります。来年度からは新規事業として検討しているものでございます。当市は中高生を対象とした中高生海外派遣交流事業を平成2年度から長年実施しております。今年度は、代替事業として福島のブリティッシュヒルズという英語研修施設で3泊4日の研修を行っております。今後、コロナの感染状況等を踏まえながら、現地へ派遣して交流ができればと考えております。来年度検討しているこの新規事業は、中高生海外派遣事業交流事業をつなぐ役割を構築するもので、幼児から市

内の小学生を対象に国際交流体験を行い、幼児から切れ目なく英語に触れる機会を作りたいと思っております。具体的には、現在教育文化振興財団で実施しておりますキッズワールドクラブ、こちら対象が幼児から小学2年生までとなっておりますけれども、こちらの事業を継続していただきながら、新たに小学校小学生3年から6年生までを対象とした（仮称）ジュニアワールドクラブとしてキッズワールドクラブからステップアップした形の楽しく英語に触れ学ぶ機会。それから、遠野の文化を再発見しながら異文化を新たに吸収するような体験をさせて、中高生海外派遣交流事業につなぐ事業として検討してございます。

以上で説明を終わります。

○市長

担当者から説明がありました。バタバタと進んだので、すごく分かりにくいかと思うのですが、いろいろプログラムの的に考えています。

ボランティアという言葉がありました。ボランティアの意味についての説明、いいですか。

○学校教育課長

学力向上の取り組みの放課後学習のボランティアですが、実際のところはただ来てやってくださいということではなく、有償ボランティアの形で予算化もしながら進めていこうと考えています。お金のことだけではないのですが、ある程度、持続可能な取り組みにしていくためには、そういう予算ベースも含めたフレームを作っていくことが大事だと思いますので、各学校で子どもたちの実態に合わせた指導を大切にしたいので、後押しする形はありますが、内容面だとか実施の方法については、例えばコミュニティスクールなどを通じて、各学校で協議していただきながら進めていければと考えています。

○教育長

新しい事業に対する私の想いを話させてください。

報告の中で学力のデータがございました。授業で身につけた力を着実に定着させたいという今後の方向性がありました。そういうことを考えて、今回の新しい事業を計画して皆さんにご協議いただきたいと考えているところです。

未来づくりサポートということで、誰の未来かという、もちろん子どもたちの未来です。子どもたちの未来は、遠野市の未来でもあり地域の未来でもあります。その未来を行政と学校と地域が連携し合って作って行って、子どもたちが夢や希望を持って、未来を生き抜く生きる力を育成していきたいと考えております。生きる力をつけるということは、やはり基礎的な学力は当然必要となります。基礎的な学力を身につけてこそ、自分の夢や希望の実現ができるのではないかと考えております。学校や地域は、人と人との関わり合いを大切にしながら、好ましい人間関係を育成して、社会性とか思いやりの心とか感謝の心など、生きる力を育む学びの場としてとても大切な場所であると捉えております。願わくは、遠野で育ち遠野で学び、そして遠野で暮らして良かったと思えるような教育を実現していきたいと考えております。子育てや幼児教育と学校教育と社会教育が連携し合って、遠野の子どもたちを育て、子ども真ん中の社会を作って、誰一人取り残すことがない教育を目指していきたい

いと考えております。そのために新しい学びの場を作り、何とか学校をサポートしていきたい。もちろん教育の中心は学校でございます。それを何とか皆でサポートしていくということで今回の未来づくりサポートという新しい事業を提案しましたので、何卒ご理解いただきますようお願いしたいと思っております。以上です。

○市長

ありがとうございました。

皆さんから、何かございませんか。

藤山委員、どうですか。

○藤山重理子委員

遠野市にとって、すごく魅力的な活動が行われることを凄く期待しています。コミュニティスクールも活発的に行われているので、こういった小学校の放課後の学習支援とか、そういった話題をコミュニティスクールの中でぜひ取り上げてもらった方が、地域性に合わせた活動がより深まると思いました。年々、不登校の数字が増えている事実はありますけれども、市の取り組みの中にきちんと入っているのは凄くいいと思います。ただ、ジョイントスクールを設置して、勉強だけじゃなくて違う体験もちょっと盛り込まれたら、学校に行ってみたいと思わせるようなきっかけづくりにもなり、こういったところで取り組めればいいと思いました。

○市長

ありがとうございました。

和子委員、どうですか。

○菊池和子委員

この中で注目したいのは、小学校の放課後学習支援ですけれども、今までも何回かそういう取り組みがされてきたように私は思っています。今までの取り組みとの違い、そのあたりもう少し明確にしていただければいいなと思います。

アンダーアチーバーといった能力を持っているのに発揮できない子どもたち、そういう子どもたちが少しでもステップアップできるような体制を作るのも、ここじゃないかと思いません。そうすれば、やはり個の指導というのでしょうか、個別の学習が保証されて、いろんなお友達に認められて、僕もやればできる、私もこれやりたいという気持ちになって、それが学習の伸びに繋がっていくと思っていますので、今までもこういう取り組みをしてきたので、それとの違いをきちんと私たちが検証すべきかと思えます。

あと、もう一つは新しいところで学習支援センターという、中高生にスポットが当たるような事業が展開されるということで、それは凄くうれしいなと思います。以前、未来づくりカレッジで遠野の子どもたちがいろんな学生さんたちと出会って、世界に目を向けることができるようになっていたことがありました。例えば、大学生を夏休み中にここにお願いをして、自分の行っている学校のこととかをお話しながら、子どもたちに勉強を教えてくれたり、僕が行っている近くの学校でこんな事があってねとか、そういういろいろな話題や情報

を子どもたちが得るような、ただ勉強を教えてもらうだけじゃなくて、夢や希望を持つ情報を教えてもらえるような、そういう場としても活用できればいいなと思います。塾との違いは、そういうところじゃないかと私は思っています。そういう面で子どもたちも伸びればいいなと思っています。

○市長

非常に良いご意見をいただきました。その違いというものを認識しつついかなければいけないし、地域や学校、父兄に説明する時に、今のような視点からの説明を取り入れていった方がより理解をいただけるのではないかと思います。

今回は、教育長の熱い想いを何とか具体的に実現できるように企画をしていきたいと思っているのですが、その説明の仕方とかというのはより分かりやすく具体的な、和子委員からいただいたような部分を織り交ぜながら話をした方がいいのではないかとヒントをいただきましたね。

今までの違いということをちょっと説明してください。

○学校教育課長

以前の取り組みの詳細は、分からないところがあるのですが、最初になぜあのようなスライドでお示したかということ、学習状況や学力の結果のところでは少し課題がありますので、個別に戻って学習してあげればさらに伸びるという子どもたちはたくさんいると思います。

コロナのせいにするものではないのですが、やっぱりこの不安定な、令和になってコロナ禍の3年間で断続的に学校を休むことも多く、何かしら安定的に学習が出来なかったことも多くあるのかなと思っています。

そのあたりも含めて、個別に応じた形で子どもたちに本当に力をつけさせること、そして以前なかったようなことを言えば、学習端末のような様々なツールも今はありますので、これらを活用して取り組みができると考えています。

○市長

教育長、どうぞ。

○教育長

今まで放課後学習をやってきましたが、その時はわりと一律に同じような問題を解いたり話をしていたと思います。このように学力が低下してきているということで、より個に焦点を当てて、もう少し自分が分からないところまで戻って学習できるとか、そこから学習を積み重ねるというようにしていければ、もっと個に応じた学習になるのかと思っています。

それに、先ほど学校教育課長が言ったとおり、学習用端末を効果的に使っていくというのも今の時代としては非常に有効な方法かなと思います。1人1台持っていますので、これから十分使っていけると思っていますので、そういうものを使って学習していく。そういう学習を

地域の人に見守ってもらう、励ましてもらう、声掛けをしてもらう、こういう形で学習ができればいいなと考えているところです。

○市長

ここからは今のところだけじゃなくて、終盤になってきましたので、これまでのことを全体的にご意見、いろんなこと結構です。今のことも場も含めてですね。はい、どうぞ。

○菊池崇委員

今のことに関連してですが、遠野市の学力向上という大事なところなので、そこに取り組んでいくことは、非常に良いことだと思っています。ただ、そのデータに出てない部分で、コロナ禍ということもあって、子どもたちの体力が圧倒的に下がってきているという現象もごさいます。科学的にみても体力の低下と知能指数、それは比例しているということもデータとして出ています。このジョイントスクール、いろいろ詰め込みすぎも良くないのですが、やっぱり遠野の子どもたちが学力だけじゃなくて、スポーツ少年団に入っている子どもたちはいいですけど、そうじゃない子どもたちの、例えば走り格好、歩き格好それから身体の硬さなどの、体力面にも注目してあげる必要はあると考えています。どこかに取り込んでくれたらより良いサポート大作戦になるじゃないかなということをお話ししておきます。

○市長

今の崇委員の意見もいいですね。説明していく時に説得力がある言葉というのはやっぱり重要だなと思いました。

いかがですか、小玉委員。

○小玉淳浩委員

私から1つ質問ですが、この学力向上ということで小学校中学校等放課後の学習を重要視しているということは大変素晴らしいことだと思います。それに関して、最初の学力調査結果からということで「学校の宿題に加え、補充のための学習や発展的な問題に児童生徒が自ら取り組める工夫をしていますか。」という質問に対して、小学校は11校中5校、中学校3校中1校ということで半分程度ではありますが、実際工夫をしている学校があるということですが、具体的にどういった取り組みをしてどういった成果を挙げているのかをお聞きしたいです。

○学校教育課長

こちらの積極肯定をした学校ではない方からお話ししますが、何も取り組んでいない訳ではなくて、先ほどこちょっと話題になりました全ての子どもたちに同じ宿題を出していると、やっぱりそれで精一杯の子もいれば、あつという間にできてしまってもっと発展的な問題を解ける子どもたちに十分それを与えていたかということ、実はそうではないということになっています。

ですから、肯定的に回答したところは、端末を使用してのドリル学習は自分のペースで進むことができるので、発展的な問題をどんどんやれる。基礎的な問題にじっくり取り組める、

ここをうまく活用している学校や、数種類の課題を準備して与えている学校など、個別に応じた対応ができているというところがこの肯定的回答に載ってきているところです。

○小玉淳浩委員

ありがとうございます。新規事業も大事ですけども、こういったうまくいっている事例は継続して取り組んでいくのも大事だと思います。

あと1点、これは放課後学習に関わらないかもしれませんが、コミュニティスクールが今年度動き出してきましたので、地域の方と一体となって、先ほどの土淵小学校さんや遠野小学校さんの取り組みは本当に素晴らしいことだと思います。地域の中で、小学生とふれ合いたいとか協力したいという方は意外といますので、そういった方々にも協力してもらえような体制、あとは学習学力向上もそうですけども、地域にはいろんな技術とか経験を持った素晴らしい方々がいっぱいいますので、そういった方々の話を聞いて、人間力の向上も1つ視野に入れて取り組んでいただければと思っています。

○市長

ありがとうございます。

人間力ですね、とにかく積極的な人間を育てることがやっぱり重要だろうと思います。さっき大学生のお話もございました。先輩や自分の近くに憧れとか希望や目標が見えるというのが非常に重要なことだと思います。そういう環境、サポートするボランティアさん、人数を集めるのは大変なことですね。すぐに簡単に揃わないですけども、それを揃えるのを待っているのではなくて、より積極的に夏休みなどの休みを使いながらですね、委員の皆様にご意見いただいたようなことを含めながらやっていくのがいいのかなと思いました。

時間も残り少なくなってきましたけれども、教育長どうですか。

○教育長

小中学校の課題でもある学力向上等々、解決をしていく事業について、様々なご意見をいただき、大変ありがとうございました。学校の想い、地域の想い、保護者の想い、願いは1つであると思います。遠野の子どもたちが、先ほども言いましたけども、夢や希望を持って生きていく力を身につけることを皆さん願っていることだと思っています。ぜひ、それを遠野市や教育委員会が地域の力や保護者の協力を得ながら、学校現場を応援していきたいと思っています。来年度、このような事業を推進していくに当たって、市民や地域の皆様のご理解やご協力が不可欠と思っています。先ほど、市長からお話しがありましたけども、少しの時間帯ならお手伝いできるとか、2時間程度ならお手伝いできるなど、いろんな方々が取り組めると思います。ぜひ、そういう皆さんの少しずつの力が最後は大きな力になっていくと考えております。これからを始めようとしている事業でもあります。子どもに何とかしてあげたいという想いはみんな一緒だと思います。子ども達の学力を向上すること、不登校の子どもたちを何とか学校に戻してあげること、これはそう簡単なことではないと思いますが、やってみなければダメだと思います。やる前から失敗することはありませんので、動いてみなければ解決することはないと思います。何とか皆様のご協力で遠野の子ども達を何とかしていきたいと考えています。以上です。

○市長

そういう熱い想いでこの新規事業を作っていく、予算化していく中で、予算は取り合いとすることが多いですね。でも、この子育て、教育、この予算についてはここにいる全員でこういうことを進めていなければならぬ、このためにこの予算必要じゃないかということで、ベクトルを同じくして相談しながら取り組んできたことを私の方から参考にお話しさせていただければと思います。

そして、最後ですけれども、皆さんから一言ずつ伺いたいと思います。

○菊池和子委員

子どもたちが本当に良い環境で色々な学びができればいいなと思っています。その中で、この前、児童館で子どもたちが戦争について聞く機会がありました。児童館でちょっとワイワイした中でやったのですけれども、子どもたちがわりと新聞やテレビの報道を見ていて、プーチン大統領の写真が出れば、「この人誰か知っている」と聞くと、1年生もプーチン大統領と言うわけです。遠野にいても世界に目を向けるというか、社会の動きに小さい時から敏感になるというか、遠野のことだけではなくて、小さい時から世界を見て、こんなこともあるんだな、あんなこともあるんだな、やってみたって思わせるようなそういう環境づくりをこれから皆さんとしていければ嬉しいなと思います。

○藤山重理子委員

今日、市長、教育長の話にあったように、子どもと携われる機会があれば、休日だけになるかもしれませんが、少しでもそういう場があればお手伝いしたいと思います。子どもと関わることで、凄くこちらが逆に良い影響をもらえる機会もあったり、逆に教えてもらうこともあったりするので、子育てするなら遠野というキャッチフレーズがありますので、皆さんを少しずつ巻き込みながら、これから遠野の子育てに関わっていききたいなと改めて思いました。

○小玉淳浩委員

未来づくりサポート大作戦、素晴らしい作戦です。頑張って、その作戦成功に向かっていかなければならないと思いますけれども、子どもたち、学校の先生、市役所の皆さんだけではなく、やっぱり、先ほどからいろいろ出ていますけれども、地域の方々を巻き込んでいけば、大きなうねりになって良い成果が出るのかなと思います。遠野の人はシャイなので、お手伝いしたい方が手を挙げないと思いますが、いっぱいいると思います。その声がけとかそういうもののシステムを作っていけばますます盛んになると思っています。以上です。

○菊池崇委員

子どもというものは、大人が作った環境で生きていくしかありません。だから、その環境をきちんとと整えてあげるといことはとても大事だと考えています。いろいろ今日話し合った中で出てきた、例えば不登校とか、その問題に関して、実はマスクを外しただけで何割かは解決できる問題だと思っています。大人が、あるいは社会がそのようにしろと言ったら、子どもはするしかないですね。その中で、子どもたちは笑顔をお忘れ、分からないで育

っています。非常にストレスを抱えているのもよく現場で見せております。なので、早く子どもの笑顔を普通に見られる社会に大人たちがしていく必要があるのではないかと切に望んでおります。以上です。

○市長

ありがとうございます。今日はですね、教育委員会それと市長部局、両方出席してまして、今回、市長部局から特に意見をやる機会がなかったのも、代表して総務企画部長から一言お願いします。

○総務企画部長

総務企画部長、鈴木英呂です。

今、お話を聞いている中で、市長から来年度の予算の編成にあたって、予算の取り合いというような話が若干ありました。今回の来年度の予算編成に向けてですね、財政担当では、この教育委員会の未来づくりサポート大作戦、これは優先順位を第1位においてですね、率先してこの予算を確保していこうという姿勢で編成いたしました。確かに、市民生活の中で道路、水路、福祉、環境と様々な分野の予算を全分野にわたって、いろんな部分で見ているのですが、来年度の予算編成に当たっては、この教育の分野の人づくりというところには1番重きを置いて作ってきました。そして、来年度の予算は投資的な予算というような位置付けで行っております。これは、産業分野への投資であるとか、あとは人づくりへの投資であるという、ここを常に年頭に置きながら来年度の予算編成作業をしてきましたので、何とかこれを予算だけで終わらせないように、きちんと実行していくよう、市役所、そして関係機関団体全て同じ方向を向いて実行にあたっていきたいと思っておりますので、皆様のご協力をこれからもよろしくお願ひしたいと思ひます。

○市長

まさに、教育委員会と二人三脚でしっかりやっていかなければならない。総務企画部長の話はそういう姿勢でございました。部活動のことについて、やはり中途半端だと思いますよね。このへんについては具体的にさらに予算どうするんだ、この考え方をどうするんだろうということを詰めていかなければならぬと思います。要は言っただけでもだめ、書いただけでもだめ、具体的にどうやっていくかという部分、またこれからですね、皆さんにご意見をいただきながら、具体的にしていきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。教育長、最後ありますか。

○教育長

つけていただける予算なので、ぜひ頑張っていきたいという思いであります。少しでも市民の皆様にご理解いただけてご協力をいただけるように、教育委員会としても頑張つて説明もしていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○市長

それでは皆さん長時間ありがとうございます。

これで議長の役目は終えたいと思いますので、部長に戻します。

○教育部長

ありがとうございました。

委員の皆さんにはたくさんのご意見をいただきました。

それでは以上を持ちまして令和4年度第1回遠野市総合教育会議を閉会といたします。大変ありがとうございました。

閉会 午後4時23分

会議録作成者 遠野市長 多田 一彦

署名 教育長 佐々木 一人

署名 教育委員 菊池 崇

署名 教育委員 菊池 和子

署名 教育委員 藤山 重理子

署名 教育委員 小玉 淳浩